山本 和英

親切な人はそんなにいらない

『経済倫理学のすすめ～「感情」から「勘定へ」～』
竹内靖雄著／中公新書

我々は家庭や学校で、あるいは公共広告で、世のため人のためになる行動（利他主義）を取りなさいと奨励されてきた。ではもし、社会のほとんどの人が利他主義になったら何が起こるか考えてみたことはあるだろうか？

今回紹介する本ではこんな考え方をする。世の中で困っている人、助けてほしい人というのは一定割合存在する。一方、助けたい人が大量にいると、「供給」が「需要」を大幅に上回る。そうすると誰かを助けたくても何もできない人が続出して、（仕方なく）自分のことしか面倒を見ることができなくなる（＝利己主義）。つまり、利他主義の人が増えれば増えるほど利己主義にならざるを得ない人が増えるのである。

この本は倫理学の本であるが、今紹介したような経済的な観点（上の例では需要と供給）から書かれているところが他の本と大きく違う。倫理学と言うと小学校の道徳の時間に勉強したような内容をイメージするだろうが、この本は「人はどうあるべきか」を指南するような内容ではなく、経済的な観点（勘定）で倫理的問題（感情）を捉えてみようという本である。

残念ながら、工学系の勉強・研究をしていると各専門分野の技術的な話が中心になって、一部の分野を除いて倫理のことはあまり意識することがない。もしかしたら、小学校の道徳の時間以来意識したことがないという学生もいるかもしれない。ただ、工学を志すかどうかに関係なく人間として倫理・道徳のことはいやでも考える場面は数多くある。例えば、以下のような質問にあなたは何と答えるだろうか？

問：殺人者を死刑にするのでなく、加害者に無限補償の責任を課すほうがよいのではないか？
問：過剰な受験競争をなくすため、大学入試合格者を抽選にしたらどうか？あるいは、企業での採用活動を抽選に義務づけたらどうか？

問：賄賂は贈賄側も収賄側も得をしており、被害者もいないのになぜ犯罪なのか？
問：自殺するのはその人の自由ではないか？
問：貧困国への人道的援助は、むしろ有害なのではないか？

これらはいずれもこの本の中にある質問である。それぞれについて解説があるが、明確な答えが書かれているわけではない。答えはそれぞれが自分で考えるべき問題である。YesでもNoでも構わない。大切なのは、なぜそう思ったかである。私は、学生時代に例えばこのような本にもぜひ出会ってほしいと願っている。きっと人間の器が一段深くなると思う。

執筆者紹介

山本　和英
電気系准教授。専門領域は、自然言語処理、テキストマイニング。

『書名』　著者名　翻訳者名　出版社または文庫・シリーズ名　出版年　税込価格
『経済倫理学のすすめ：「感情」から「勘定」へ』竹内靖雄著　中央公論社（中公新書）　1989年　品切

ブックガイド目次へ